

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090500515		
法人名	社会福祉法人 薫会		
事業所名	グループホーム こうえつ苑(3階)		
所在地	〒800-0207 福岡県北九州市小倉南区沼緑町1丁目11番21号 TEL093-471-821		
自己評価作成日	令和4年8月13日	評価結果確定日	令和4年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和4年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日ストレッチ・タオル体操・ラジオ体操・足踏み・廊下で歩くなどADLや健康維持に取り組んでいます。また、レクリエーションでは歌や折り紙など入居者の生活が豊かになるように取り組み、穏やかに過ごせるように努力しています。雑談・クイズで入居者に頭を使っていたいただき、楽しく声を出す機会をたくさん提供するなど脳の活性化にも努めています。また、職員と利用者さんのコミュニケーションもよくとれています。
 その他、隣接する特別養護老人ホームとの合同で研修をしたりと職員の資質の向上に努めています。穏やかなアットホームな雰囲気の中で職員も入居者と一緒に楽しく過ごせる笑いのあるグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニット合同の朝礼時に運営方針を唱和し、入居者の笑顔溢れるのびやかな生活を支援している。入居者に「最近どうですか」と問いかけ、意向を表出しやすい関係や場づくりで、普段は早くに居室で休む方も居間での夢中になるなど、楽しい時間となっている。居室間違えを他の入居者が「間違えたみたいね」と穏やかに見守る暮らしぶりから、日頃の対応が伺える。敷地内の系列法人1階の地域サロンで毎日開催されている各事業所合同の朝礼で、倫理研究所発行の「職場の教養」の読み合わせなどで、人権教育や啓発活動に取り組み、毎月救急蘇生法やAEDの取り扱いを学ぶ「命を守る研修」が開催され、「助け合える仲間がいるので働き易い」と長年勤務する職員も多く、系列法人と一体となり、理念や運営方針のさらなる具現化が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 3階／グループホームこうえつ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人薫会の運営方針と理念を朝礼時に唱和し、理念に沿ったケアを目指して日々研鑽している。	敷地内の系列法人1階地域サロンで、各事業所合同の朝礼後に、ホームでもユニット合同で朝礼を実施している。朝礼時に運営方針を唱和し、入居者の笑顔溢れるのびやかな生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響があり、交流の機会は減ってきているが、市民センターでのふれあい祭りに参加をしたりして交流を図っている。	近隣や隣接する軽費老人ホームから入居される方も多く、校区文化祭に入居者の貼り絵や塗り絵を出品したり、市民センターで11月に開催が予定されているふれあい祭りの参加を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かすまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族、地域包括支援センター職員、自治連合会長などの参加により、行事等の話し合いを行い、サービスの質の向上につなげている。	9月の運営推進会議は感染予防に配慮して、メンバーに行事や入居者の状況などを書面で報告し、議事録を整備している。会議は平日の午後で開催され、就労されている家族が殆どのため参加が難しいのが現状である。	運営推進会議設置目的を勘案し、開催日程や内容の工夫などで、家族の参加を促すとともに、玄関などで議事録の公表を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北九州高齢者社会福祉事業協会に参加し、市職員と運営推進会議での情報を共有したり、アドバイスをもらえるよう取り組んでいる。	地域包括センターに、毎月FAXで居室情報を提供している。「良い施設だから」と紹介された家族が見学に来訪されるなど、日頃から連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議において身体拘束についての研修を行ったり、話し合いをもっている。その他、隣接する悦和の郷における虐待防止委員会に定期的に参加をし意識を高めるようにしている。	隣接する地域密着型複合施設で開催される身体拘束防止委員会に職員が参加している。その折の資料を全職員に回覧し、身体や言葉による拘束をしないケアに取り組んでいる。家族に状況を説明し、食事用のエプロンの購入やセンサーマットの使用をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議において身体拘束についての研修を行ったり、話し合いをもっている。その他、隣接する悦和の郷における虐待防止委員会に定期的に参加をし意識を高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者や家族から相談があれば、いつでも説明できるように資料やパンフレットを用意している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用を関係機関と協議予定の入居者はいないが、入居後施設長が制度を紹介し、保佐や後見を受けている入居者がある。	今後さらに多様な家族構成が予測されることから、日常生活自立支援事業や成年後見制度の内容やその違いを周知する研修会の開催を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、介護報酬の改定の際には、家族等には十分説明し、納得してもらえるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付先をホーム内に掲示し、意見箱を設置している。家族の面会時に気軽に意見や要望を言えるように努めている。	家族に個人情報やプライバシーの保護、苦情や意見を言える環境かなどの事業所評価アンケートを実施し、結果は公表している。家族に電話で理美容の利用許可や物品購入をお願いすることが多いが、家族からの電話対応の不手際に関する意見には、即対応し今後の対応策を検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体会議などで意見や要望・提案を聞き、反映できるように努めている。	月1回、ユニット全体会議が勤務時間内で開催され、全職員が会議録で内容を共有し、提案があった電動ベットの購入が実現している。管理者は日頃から、職員の意見や思いを受け止め、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態など何かあれば、勤務表作成時に調整できるように行っている。代表者は職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は、介護への思いなどを大切にしており、性別や年齢などで差別はしていない。 また、身体拘束・虐待防止委員会でも人権教育に繋がるように研修を行っている。	パートや夜勤専従、日勤帯のみなど、個々の状況に応じて、50代～70代の女性職員が就労している。長年勤務している職員が多く、シフトや希望休が叶い、休憩場所も設置され、助け合える仲間がいるので働き易いと職員は話している。オンラインによる口腔ケアや身体拘束などの研修受講や、資格取得を推奨している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の尊厳、人権を守ることは日頃から全職員で心がけている。 また全体会議などで施設長が講師となり研修を行っている。	身体拘束・虐待防止委員会が定期的に関催され、敷地内の系列法人1階地域サロンで毎日開催されている各事業所合同の朝礼で、倫理研究所発行の「職場の教養」を読み合せ、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な外部の研修の知らせをしたり、研修を受ける機会を確保したりオンラインでも、職員一人一人の介護サービスに対する取り組みとやる気を引き出して職員の質の向上につなげている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	北九州高齢者福祉事業協会に加入し、地域の同業者と交流する機会を持ち、介護サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に事前面接を行い、本人が利用に対して感じていることを伺い、安心して慣れもらえるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談や施設見学の時に家族が困っていることや利用に対して不安に思っていることや要望などを話しやすいような状況を作って関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話等での問い合わせや事前面接において本人の状況及び周辺環境を聞き、必要としている支援を見極められるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人ができることへの参加を促し、笑顔で日々を過ごせるように会話を通して関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と日頃から情報交換を行い、利用者を家族とともに支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、知人の訪問も断ることなく気持ちよく友人に会えるようにしていたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止をすることもある。	現在、家族には対面ではなくオンラインでの面会をお願いしている。職員の支援で所持している携帯電話で家族との会話を楽しんでもらったり、職員が電話で状況を報告するなど、家族との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌や体操などのレクや雑談を通じて利用者同士のふれあいが図れるように支援をしている。また、相性の悪い入居者同氏がトラブルにならないように席順なども工夫している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所の時なども、必要に応じて面会に行くなどして、家族からの相談等にものれるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りや家族からの聞き取りなども踏まえて、利用者に関わる中でその方の思いや訴え等を把握できるように努めている。	管理者は夜勤帯などで、入居者に「最近どうですか」と問いかけ、意向を表出しやすい関係や場づくりに努めている。普段は早くに居室で休む方も居間での話に夢中になる時もあり、楽しい時間となっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とのコミュニケーションをよく図るようしており、また家族との日々の会話の中で情報を頂けるように努めている。また、入居される際は自宅・または以前入所していた施設などからなるべく情報を頂けるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の会話や行動を観察するとともに、残存能力を発揮できる場面作りに努めている。また、観察して分かったことはなるべく記録に残して職員間でも情報が共有できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の要望を聞きつつ職員間の気づき等を検討し、本人が安心して生活できるような介護計画を作成している。	担当者会議で、入居者や家族の意向を明記した介護計画の短期目標やケア内容を見直している。日頃は上肢の挙上ができず食事介助を要する入居者が、家族面会時には挙上できるなど、本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支え、安心できる暮らしを支援している。	職員の気づきやモニタリング結果を踏まえた検討課題や話し合いの結果、今後の課題などを分かりやすく記載した担当者会議録の作成で、より現状に即した介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にその日の体調面、生活面などを記入するようにし、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かすように努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じて、病院送迎、往診など柔軟に支援している。また、訪問診療や訪問看護・訪問歯科などにも必要に応じて相談をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は町内合同納涼祭や焼き肉夏祭りなど地域のボランティアの方に手伝ってもらい、本人が楽しんで暮らせるように努めていたが、コロナ化で行えてない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者または家族が希望し、納得している医療機関を受診できるように支援している。また必要に応じて今まで何度も通院をして信頼関係が築けている医療機関をこちらから紹介することも行っている。	協力医療機関からの訪問診療やこれまでのかかりつけ医の受診を支援している。受診に同行した管理者が心身や服薬状況の報告や指示を受け、各入居者の医療情報シートで情報を共有している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護で、入居者の状態を観察してもらい何かの異常があってもすぐに対応できるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の施設での状態などの情報を共有し早期退院できるように情報交換に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームにて出来ることと出来ないことを伝え、かかりつけ医と相談できる体制を作っている。	重度化した場合における指針を整備し、入居時に説明している。協力医療機関や訪問看護との連携で体調を管理し、体調が急変した場合は、救急搬送している。現在まで看取りはなく、家族と話し合い、最期を過ごす場所への住み替えを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、訓練を行っている。隣接する悦和の郷と合同で定期的にAEDの取り扱いなど研修を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、隣接する軽費老人ホームの職員や入居者等の協力を得られるようにしている。	毎月、法人で救急蘇生法やAEDの取り扱いを学ぶ「命を守る研修」が開催され、6月には夜間を想定した消防訓練を実施している。出火より10分で全員2回避難し、消火器の使い方を訓練している。飲料水や衛生用品、感染対策グッズを各ユニットに備蓄している。	備蓄台帳の整備や、敷地内の系列事業所とともに、自然災害発生時のみならず、新型コロナウイルス感染症発生時における事業継続計画を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に、一人一人の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を意識している。	個人情報保護やプライバシー保護の研修を実施し、「〇〇さん」と名字で声をかけ、難聴の方には耳元で話しかけている。居室間違えを、他の入居者が「間違えたみたいね」と穏やかに見守る暮らしぶりから、日頃の対応が伺える。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の意思決定を尊重し、思いや希望を伝えられる環境づくりに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中の雑談やタオル体操など利用者みんなで集う時間はあり、その日の体調や希望を聞きながら日課の押しつけにならないように配慮している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や本人の希望で訪問理美容などを利用できるように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者のその日の状態を把握し、台拭きなどを手伝ってもらい、楽しい食事になるように支援している。	食事は業者搬入であるが、8月の夏祭りでは居酒屋メニューの焼きそばや冷ややっこ、枝豆を舌鼓をうち、調理レクでは蛸なしのタコ焼きを楽しんでいる。調査日、職員が撮影した動画には職員の見守りや介助を受けながらも、よそいき顔でおやつゼリーの楽しむ姿があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などをチェック・記録し、一人一人の状態把握に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力に応じて声掛け誘導や口腔介助をしている。必要に応じて訪問歯科を利用しており、状況を報告して歯科より指示を受けて対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄チェック表を作り本人の生活パターンに合わせて声掛け誘導を行っている。	各ユニットに男性用を含め3ヶ所に設置されたトイレで、入居者の排泄パターンに応じた排泄を支援している。夜間自室から出るのを怖がり、ゴミ箱に放尿する頻尿の入居者は、ポータブルトイレを自分だけのトイレとして、安心して夜間のみ使用している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行訓練、水分チェックや服薬管理などで便秘の予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回ほどではあるが、利用者の希望や健康状態などを考え入浴を楽しめるように支援している。	週2回を目途に入浴を支援したり、状況に応じて清拭をしている。入浴を億劫がる入居者も、入浴後は「気持ち良かった」となっている。職員2人体制でも浴槽に浸かることを怖がるため、シャワー浴を支援している車イス利用者もある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の毎日の温度調整や週1回の寝具の交換など、気持ちよく眠れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬箱に、薬の種類や副作用、用量が書いた用紙を貼り付けて分かるようにしている。 変更があれば連絡帳に記載し、職員一人一人が周知できるように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台拭きや洗濯物たたみ、本人の希望に合ったレク・アクトなどを提供し、楽しみながら生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響があり、外出は減っている。外出としては、外出レクリエーションでドライブで花見や新緑ドライブに行ったりしている。	敷地内の桜の花見は恒例となり、法人発行の新聞に笑顔の写真が掲載されている。新型コロナウイルス感染が収束した折には、近隣のコンビニやスーパーで買い物を支援したいが、何より近隣を散歩してほしいと管理者は話している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人によっては、お金を持っている人はいますが今は、使う機会はありませんがコロナが治まってくれば支援していく。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望するときにはいつでも電話をかけられるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バルコニーなどに紅葉・紫陽花、その他、季節の花を置き利用者に楽しんでもらっている。アジサイなどの切り花をリビングのテーブルに置くなど季節感を感じてもらえるような工夫をしている。また、リビングにはソファを設置し、利用者がくつろげるように工夫している。	感染防止に配慮し、スマートフォンで共用空間を視認した。バリアフリーの玄関から見える居間は、中央に椅子やテーブル、周囲にはソファが設置され、空気清浄器や天井に取り付けた扇風機などで、換気や光、音や匂いに配慮された居心地の良い空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、テレビや少人数でおしゃべりなどできるように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は馴染みの家具やアルバムなどを持ち込まれるなどされて安心して過ごせるように工夫している。	感染防止に配慮し、スマートフォンで居室を視認した。入口は職員手作りの表札や室間違い防止に向日葵を掲示し、テレビや筆筒が持ち込まれ、職員手作りのペーパーフラワーなどが飾られ、家族持参の華やかな色彩の包布を使用した寝具が置かれている。中には自室に掃除機をかける入居者もあり、居心地良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ等手すりの必要な場所には手すりを設置し、廊下やリビングには転倒しないよう極力物を置いたりせず、安全に移動し歩行が出来るように配慮している。		